

わたしの一枚  
my photograph

あなたにとって  
「わたしの一枚」とは  
どんな写真ですか？

「ホンモノ」

橋本 拓史 (広島県世羅町 橋本写真館)



今回、このコーナーに投稿の機会をいただいたので、久しぶりに自分のアルバムに目を通した。生後間もない頃から現在に至るまで、写真館の息子なので流石に写真が多い。

幼い頃、多感な中学・高校の頃、家業の写真館を継ぐため田舎から上京、大勢の友達に会い、楽しさだけが印象に残った東京工芸大在学の頃。記憶に残る思い出の1枚となると、あれこれと迷ってしまう。

やはり一番思い出に残るのは、「写真」を将来の職業として真剣に考えた時期、つま

り大学卒業後、写真館に修行した頃だと思う。4年間、東京・自由が丘の故藤原正先生のもとで弟子という形で勉強させていただいた。従業員ではなく弟子である。大変なことも多かったが、それ以上に得る事の方が多い期間であったと思う。

「藤原のお弟子さん」ということで、著名人や業界の先生方にも度々お会いすることが出来た。色々な話も聞かせていただけた。とても貴重な時間だった。

先生と私の休みの日が合えば、絵画展や骨董品店などに何度も同行させていただいた。審美眼が高く、写真だけでなく「芸

術」と名の付くものにとっても精通されていた。「橋本君、写真はもちろんだけど、絵画や生け花、書、陶芸など世の中で良いとされているもの、いわゆるホンモノをたくさん観なさいよ」と常々言われていた。

修行を終え家業を継いで28年、日々の生活に追われる毎日。久しぶりに開いたアルバム。1枚の写真から当時の事が思い出される。写真を残す大切さにも改めて気付く。

先生の言われた事を実践出来ているのか？  
自戒の意味も込めて、  
この写真が「私の一枚」です。

■「写真文化」では、あなたの「わたしの一枚」を募集しています。▶詳しくは日本写真文化協会・事務局までご連絡ください。